

一 解答例

問1 a 擬人 b 利器 c 疾病 d 膨大(龐大も可) e 中傷

問2 スマートフォンを気づかないうちに長時間使用してしまっていたり、スマートフォンを操作していないと落ち着かないというような状態では、親指がブラック企業の社員のようにならざるも働かされていることになる。文章の書き手が親指をブラック企業の社員にたとえたのは、長時間使用や過度の依存に対して、自らを律する意識が表れているからであると、筆者は推測したのである。

問3 バス停でバスを待つ人たちが、初夏の若葉が輝いているのにもかかわらずそれに目を向けることもなく、みんなそれぞれ黙り込んでスマホを操作し、スマホの世界のなかに閉じてしまっている様子を、「人と人との無機的な光景」という言葉で表している。

問4 スマホが壊れて使えなくなることにより、いやおうなしに「手ぶら」の状態になるが、手にスマホを持たないことによつてはじめて、スマホがない時間の自由や豊かさというものに気づき、自分が現実世界と隔てられたスマートフォンという「檻」の中に無自覚にはまっていたことを自覚したということを言っている。

問5 インターネットやプラスチックの例に見られるように、科学・技術の発達はこれまでの生活では考えられなかった希望をもたらす一方、発明した段階では気づくことができないような、新たな問題をもたらすという面を合わせ持っているので、私たちにはその向き合い方が難題になるということ。

問 6 あづま（東国）から京に上った。

問 7 月の明るい夜

問 8 「世」に「夜」が掛けられていて、今夜、作者が父親に再会し話しているこの時。

問 9 ⑦過去の助動詞「き」已然形 ⑧推量の助動詞「めり」連体形

問 10 赴任により娘と離ればなれになってしまい生きていることに嫌気がさしていたが、再会できた今夜は、長生きした自分の寿命を嬉しく思っている。

※思うようにならないと嘆いていた自分が生きて娘に再会できたことへの父親の喜びが書けていれば可。

問 11 父の赴任による離別を悲しんでいたが、無事を願いつつと再会できたことを嬉しく思っていたものの、父はもう先が長くないから官職を辞したいと言い出し、老いた父のことを心細く思っている。

【漢文解答例】

問12 傍線部①「若何」、②「固」の読みを送り仮名も含めてすべて平仮名で記しなさい。

↓ ①「いかん」、②「もとより」

問13 傍線部A「願先生言事則直言耳」を「直言」の意味を明らかにしながら現代語に訳しなさい。

↓ 「先生、どうか物事を説明するにあたっては、（比喻ではなく）直接にそのものについて語ってください。」

問14 傍線部Bは「今此に人有り、而して弾を知らざる者なり」と書き下します。それに従って返り点と送り仮名を加えなさい。

↓ 「今有_レ人_ニ於_ニ此_ニ、而_{シテ}不_レ知_ラ彈_者ナリ」

問15 Xにあてはまる漢字一字を次の中から選びなさい。

「須」「即」「乃」「蓋」「未」 ↓ 「未」

問16 傍線部C「以其所知諭其所不知、而使_レ人知之」を書き下し文にし、現代語に訳しなさい。

書き下し文 ↓ 「其の知る所を以て其の知らざる所を諭し、而して人をして之を知らしむ」
現代語訳 ↓ 「知っているものによって知らないものを教え、人に理解させる。」